

ASUKA

CLUB MAGAZINE

2隻で紡ぐ
新たなステージ

My ASUKA CLUB

INFORMATION

飛鳥クルーズは、日本船ならではの上質な空間で、和のおもてなしと日本文化の魅力を発信する、至福のクルーズ体験を提供します。「飛鳥Ⅱ」は、「お客様の好みに寄り添う旅」をコンセプトに、全室海側の客室、ゆったりとしたスペースや露天風呂など充実の施設を備え、お客様の嗜好に合わせた多彩な食事やエンターテインメントが特長です。「飛鳥Ⅲ」は、「お客様好みに広がる旅」をコンセプトとし、6つのレストラン、エンターテインメントやウェルネスなど心身を満たすプログラムを備え、より自由に、より豊かに、新たな時代のクルーズを創造します。

飛鳥クルーズ
公式ページ



「飛鳥Ⅱ」「飛鳥Ⅲ」運航会社：郵船クルーズ株式会社
Tel/0570-666-154 (ナビダイヤル) 営業時間 10:30~17:00 (土・日・祝休み)
※一部のIP電話、国際電話の方はご利用いただけません。
※掲載内容は2026年1月時点の情報です。
飛鳥クルーズ公式HP：<https://www.asukacruise.co.jp>

My ASUKA CLUB



My ASUKA CLUB ~飛鳥クルーズを極める会員クラブ~
「飛鳥Ⅱ」と「飛鳥Ⅲ」に会員割引旅行代金でご乗船いただけるなど、お得な特典や飛鳥クルーズをよりお楽しみいただける情報を配信。ご乗船の有無にかかわらず、2歳以上ならなたでもご登録いただけます(入会金・年会費無料)。
ご入会はこちらから <https://myac.asukacruise.co.jp>

“船上”という特等席
だからこそ見える
特別な景色。
自然が織りなす奇跡の瞬間を
お届けします。

photographer:
SUSUMU TSUNODA
writer:
MIO AMARI

東京湾口の

日の出

なぜ、日の出はこれほどまでに心を惹きつけるのだろうか。
それはその光が前向きでみずみずしく、希望を宿しているからではないか。
東京湾口から見える東の景色もまた、その確かさを示してくれる。
海と空の境が揺れて、房総半島が影絵のように浮かび上がり、
今日だけの朝陽が世界をゆるやかに、そして力強く染めてゆく。



2025年10月某日の朝6時頃、「飛鳥II」が三浦半島沖を進む途中に見えた景色。
船尾右舷側から東を望むと、東京湾越しに房総半島南部が浮かび上がり、早朝ならではの澄んだ光が
航海の一瞬を鮮やかに照らし出してくれました。
刻々と表情を変える海と空の交わりを、次のクルーズでぜひご覧ください。

注目の新造客船をポイント解説!

「飛鳥Ⅲ」が叶える “最幸時間”とは 魅力を知るためのKey Word 10

2025年7月20日に「飛鳥Ⅲ」が就航しました。
今後2隻運航で世界、
そして日本の海を巡り、皆様の航海を
“最幸”の旅にしてみたいです。
新しい「飛鳥Ⅲ」の魅力はいくつもありますが、
ここでは10個に厳選してお伝えします。

Key Word

1



ドイツ発、
世界有数の造船所

マイヤール ベルフト

「飛鳥Ⅲ」の船籍港は「飛鳥Ⅱ」と同じ、横浜。
では出生地は?というところ、
日本生まれの「飛鳥Ⅱ」と異なり、ドイツです。
建造したマイヤール・ベルフトは、1795年に北西部の街、
パペンブルグで創業し、
200年を超える歴史に裏打ちされた技術力をもって、
最先端の豪華客船を数多く建造。ラグジュアリーかつ洗練された
客船づくりは、世界中から賞賛されています。
その造船所敷地内に、郵船クルーズは2023年5月より
オフィスを開所し、建造開始から進水、
そして日本に向けて出港するまでの約2年間を指揮してきました。
今後「飛鳥Ⅱ」と共に日本のクルーズの未来を拓き、
皆様に「最幸の時間」をお届けいたします。

すべてをお客様好みに

パーソナライズ

“お客様好みに広がる旅”をコンセプトに就航した「飛鳥Ⅲ」。
最幸のパーソナルタイムは客室だけでなく、
過ごしたい旅のスタイルに合う多彩なプログラムが
船内のさまざまな場所に用意されています。
食事、エンターテイメント、ウェルネス、数々のアート……。
五感で楽しみながら心身を解き放つような
ライフエンリッチメント体験が、皆様をお待ちしています。

Key Word

3

写真は11デッキにある「アルパトロスプール」。
3泊以上のクルーズが中心の「飛鳥Ⅲ」なら、心地よい海風と
太陽の光を浴びながら一日中まったりと過ごす、
リゾート地のような贅沢な時間の使い方もおすすめです。
ジェットバスも2台あり、いろんなリフレッシュが可能です。



全客室が絶景

オールバルコニー

Key Word

2

部屋でのリラックスタイムを
さらに上質に、思い出しに
残るものとしてくれるのが、
贅沢にも全客室に備えられた
プライベートバルコニー。
船内の多様な客室位置は、滞在するたびに
新しい景色を楽しませてくれます。
そのバルコニーから陽光が差し込む室内は
居住性に優れた空間に仕上げられ、
最多の客室タイプ「アスカバルコニー」が、
国際的クルーズ客船のインテリアアワード2024で
「クルーズシップ インテリア アワード 2024」で
ベストステートルーム賞を受賞。
キッチンシンク付きのミニバーまで備え、
日常の暮らしのように素敵な非日常を叶えます。



写真下は船尾両角の
「パノラマスイート」の
客室バルコニー。
二面に面した広々とした
スペースで、出航時の
眺めは格別です。

その日の気分にあう豊富な食事

7

船上での贅沢なひとときを彩るのが、心に残る美食体験です。「飛鳥Ⅲ」の「お客様好み」へのこだわりは、お食事でも同様です。オールデイダイニングは以下の2カ所、P22掲載の「ノブレス」などコンセプトが異なるレストランが4カ所。それぞれに至高の逸品料理が用意され、気分にあった料理が食べられます。たとえば右の飛鳥ハンバーグをお夜食、というエムスガーデンでお夜食、という食の楽しみ方ができるのも魅力です。



写真は石川県のお部屋。壁を飾るのは、金沢の伝統工芸品の金箔を使った作品、「BIRTH」。凹凸による陰影が美しい。

ウェルネス

アクティブオーリラックスが思いのまま

洋上の絶景が心のリフレッシュなら、体のリフレッシュを叶える。ウェルネスプログラムも充実。写真のエアリアルヨガのほか海風を感じるデッキウォーク、本格的ゴルフシミュレーターによる体感型ゲームなど、アクティブな体験に加えて、熟練のセラピストによるオリジナルコスメを用いたスパでの施術（P36参照）で心身ともにリラックスすることも。また講師による陶器の金継ぎやアートを自らの手でつくる知的好奇心を満たす講座もあり、頭のリトリートまで叶えます。



8

Key Word

お部屋で日本の魅力を五感で楽しむ

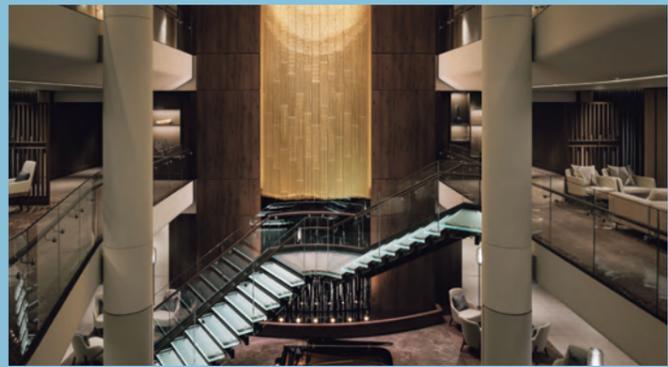
ASUKA meets 47都道府県

都道府県を表現した客室は、日本を代表する客船という誇りから、「ミッドシップスイート」の各室に47都道府県を割り当て、伝統工芸作品や特産品、名産を使用したウェルカムスイーツなどを客室にご用意。出身県ルームに宿泊し、故郷の魅力を再発見する楽しみも。

9

Key Word

乗船して最初に目に飛び込むのが、3層吹き抜けの「アスカプラザ」(5デッキ)を飾る壮大な漆芸作品。蒔絵の人間国宝・室瀬和美氏によるものです。



人間国宝から新進気鋭の作家まで 工芸&アート

「飛鳥Ⅲ」でしか味わえない「最幸の時間」をより特別なものにしてくれるのが、船内のあらゆる場所で出会える日本のアート。レストランやカフェなどパブリックな場はもちろん、客室までも日本を代表する作家の伝統工芸やアート作品が旅を彩ります。さらに、今後の活躍が期待される若手作家のものや公募展で選ばれた作品なども加わっており、船内は日本の芸術文化の多様な魅力に溢れた空間に。すべて見て回ると五千歩にも及ぶので、アート鑑賞とウェルネスが同時に行えます。

新感覚の没入体験と多彩な船上ライブ

エンターテイメント

船内のアートを鑑賞し、夜は音楽やステージで芸術体験をする。そんな一日の楽しみ方も「飛鳥Ⅲ」ならではの、ジャズやクラシック、ポップスなどの音楽ライブだけでなく、最新デジタル技術と音楽、ダンスを融合させた唯一無二のパフォーミングアーツは新感覚の没入体験が堪能できます。



音楽ライブは船内4カ所で開催。プロによる生演奏は圧倒的です。一方、パフォーミングアーツは6デッキにある「リュミエールシアター」でホログラフィック演出による幻想的な世界を楽しめます。

4

Key Word

“自由な美食”の起点となる2つのオールデイダイニング



フォーシーズン・ダイニングルーム
“日本の洋食”と和食をご提供する5デッキのダイニング。アラカルトでもセット料理でも、豊富なメニューから好きなだけオーダー可能で、季節の特別料理やシェフおすすめメニューも登場します。エントランスを飾る田村能里子氏のアートも必見。

エムスガーデン
早朝から夜遅くまでオープンしていて、小腹が空いたときなどいつでも何度でも利用できる11デッキのレストラン。世界各地の名物料理が時間帯に合わせてビュッフェ形式で並び、ディナーでは各国のワインやビールなどの銘酒も揃います。

Key Word



写真はスイート客室に設えられた、プリザーブドフラワーボックス。ブルーローズとカーネーションをベースにお部屋を演出。
※時期等の都合により設置のない場合があります
※客室内にてお楽しみください

「飛鳥Ⅲ」を彩るオリジナルフラワーボックス

ニコライバーグマン フラワーズ&デザイン

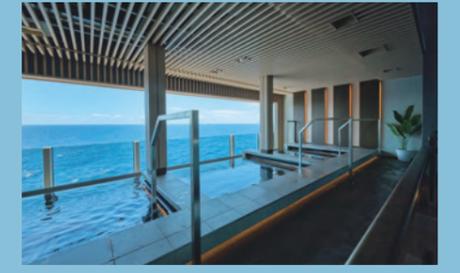
斬新かつコンテンポラリーなデザインが魅力の同ブランドのフラワーボックスが、各客室を彩ります。飛鳥クルーズのイメージカラーのブルーを基調とし、客室のナチュラルトーンと合わせて清華な空間に。



心身ともほぐされる

絶海 露天風呂

日本で計画された客船、飛鳥クルーズならではの、12デッキにある大浴場と露天風呂「グランドスパ」。高層の船首側から眺める日中、夕暮れ、星や月が照らす海の風景は、他ではできない極上体験です。



船首に位置するため、鳥々が近づく様子も見られるのが醍醐味。空を写す湯舟はまるでインフィニティプールのよう。大浴場には展望サウナも併設しています。



飛鳥クルーズで味わうスペシャリテ

SPECIALTY to Enjoy

高い評価を博す飛鳥クルーズの美食。
その中から厳選した一皿を
誕生の物語を添えてご紹介。
至福の味わいをご堪能ください。

photographer:
SUSUMU TSUNODA
writer:
MIO AMARI

ASUKA III Noblesse

NOBLE PATE

「飛鳥Ⅲ」ノブレス 貴族の パテの



大地への感謝を パイ生地の中に閉じ込めて

「日本のテロワールを大切に、大自然への敬意と感謝を
忘れないという誓いをパテで表現しました」とエグゼクティブシェフ。
鴨、ホロホロ鶏、ウズラ、仔牛などの肉をミンチにして
3日間マリネし、フォアグラやピスタチオなどとともに
パイ生地であんで焼成。冷蔵庫で3日ほど寝かせて完成へ。
手間をかけた丁寧な仕事ぶりが味に宿ります。

洋上の時間を華やかに。 気品を宿すスペシャリテ

「ノブレス」のスペシャリテ「貴族のパテ」。
肉の旨みを重ねたミンチに、
スパイスやハーブの香りが寄り添い、
ひと口ごとに奥行きのある味わいが広がります。
ディナーコースの一品としてはもちろん、
ワインと楽しむアラカルトでも。
季節の野菜のピクルスや白ワインのジャムが
濃厚なパテを引き立て、味の変化も楽しめます。
美しい断面を眺めながら、
心華やぐ洋上のひとときをどうぞ。



「貴族のパテ」と響き合う ブルゴーニュ産のシャルドネ

フランス・ブルゴーニュ地方南部のマコネ地区で名高い
シャトー・ド・フュイッセが手掛けるシャルドネ100%の
白ワイン「ブイ・フュイッセ テート・ド・キュヴェ」。
樽とステンレスタンクでの熟成・発酵もたらす洋梨や白桃、
アプリコットを思わせる果実の奥行きのある香りと、
パテの旨味と生地の風味が響き合い、気品ある余韻が続きます。

パ

テをパイ生地で包ん
だフランスの古典料理
「パテ・クルート」。生地の
扱い、肉の扱い、肉と生地を一
度に加熱する難しい火入れな
ど、高度な技術が必要となる奥
深い一品です。「飛鳥Ⅲ」のシグ
ネチャーレストラン「ノブレス」
では、その王道を受け継ぐ特別
なパテをご提供しています。
原点は2010年。「飛鳥Ⅱ」
の世界一周にゲストシェフとし
て関わったフレンチの巨匠によ
るパテ・クルートとの出会い。
「この味を再現したい」——衝撃

を受けた「飛鳥Ⅲ」のエグゼク
ティブシェフが、試作を重ねて
ついに「貴族のパテ」を形にし
ました。
中心温度の見極めがなにより
難しく「わずかでも温度が上が
ると口当たりが変わってしまう」
とエグゼクティブシェフ。丁寧
な火入れと冷却を経て、しつと
りと仕上げた断面には、受け継
いだ技と誇りが窺えます。
美しい切り口を眺めながら味
わう優雅なひととき。洋上で出
会うフレンチの伝統を、ぜひお
楽しみください。

飛鳥クルーズに映える
旅ファッション

STYLE for Cruise

船旅をさらに楽しくしてくれるのが、
各シーンを意識した装いの工夫。
飛鳥クルーズでの旅に映える、
そして簡単な装い方をご紹介します。

photographer:
SHIN KIMURA
stylist:
CHIHARU OSAWA
editor:
HIROMITSU KOSONE

船旅の基本は 紺ジャケットと ワンピース

優雅な洋上のひとときに 装いでさらなる彩りを

男性の場合、紺ジャケット一着だけで様々なシーンに対応可能。濃紺の無地ならカジュアルにもドレスシーにも着こなせます。女性のワンピースは、デイトタイム用の軽やかなものとナイトタイム用のエレガントなものを使い分けて。こちらは淡いブルーが陽光に美しく映える昼向けの一着。ジャケット17万6000円/クルーズ×WAKO、ワンピース8万8000円/WAKO(以上和光Tel/03-3562-2111)



NAVY JACKET & DRESS

船

旅には場所や時間帯に応じてドレスコードがありますが、それを単なる「規則」に終わらせるのは少しもったいないかもしれませぬ。降り注ぐ陽光、輝く波、薫る潮風……そんな美しき非日常にいつその彩りをもたらし、旅の作法として、積極的に装いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

その基本となるアイテムが、紺ジャケットとワンピースです。カジュアルな装いで過ごす日中も、これらを主役にすれば優雅で上品な印象に。ナイトタイムなら、よりシックさを意識して着こなせば一段とラゲジュアリーな気分を満喫できます。着こなしは、ブルー&ホワイトを基調にするのがおススメ。全体の配色次第で、爽やかなマリンスタイルもエレガントなドレスアップもでき、洋上というロケーションにもぴったりです。

次号からは、より具体的なドレスコードに則して船旅の装いをご紹介します。ぜひ注目ください。



リラックスした昼も より上品なムードで 楽しめます

ニットやポロシャツなどで軽やかに過ごすことが多いデイトタイムですが、紺ジャケット&ワンピースならより上品に。非日常の高揚感もいっそう楽しめます。〈男性〉紺ジャケットにホワイトパンツと明るい色のニットを合わせ、スニーカーでアクティブに。〈女性〉カジュアルなチェックワンピースに歩きやすいパンプスを。カーディガンを羽織れば肌寒いときも安心。〈左〉ワンピース7万4800円、ニット3万9600円/以上ポール・スチュアート(SANYO SHOKAI カスタマーサポート Tel/0120-340-460) 靴5万9400円/ペリーコ(アマン Tel/03-6418-5889) その他<スタイリスト私物>〈右〉ジャケットは右頁と同じ。シャツ2万7500円、ニット3万6300円、パンツ2万9700円、チーフ<参考商品>/以上ポール・スチュアート(SANYO SHOKAI カスタマーサポート Tel/0120-340-460) 靴3万6300円/三陽山長(三陽山長 日本橋高島屋 S.C. 店 Tel/03-6281-9857)

明るい色を多めに
使って軽やかに

DAY TIME



日中はカジュアルな
ワンピースが活躍

仕事着よりも
遊び心を意識して

濃紺ワンピースで
シックさを演出

NIGHT TIME

夜はエレガントな ダークトーンを 中心にまとめて

「飛鳥II」なら「インフォーマル」、
「飛鳥III」なら「エレガントカジュアル」の
ドレスコードにぴったりの装い例がこちら。
レストランやバーにも映える佇まいです。
〈男性〉ウールのグレーパンツでシックに
合わせつつ、パープル系のネクタイと
シャツでさりげない遊び心も演出。
〈女性〉しなやかなジョーゼット素材の
ワンピースに、ウエストベルトでメリハリを。
〈左〉ワンピース6万9300円、ベルト1
万7600円/以上ポール・スチュアート
(SANYO SHOKAI カスタマーサポート
Tel/0120-340-460) 靴9万7900円
/ペリーコ(アマン Tel/03-6418-5889)
その他<スタイリスト私物>〈右〉ジャケット
は右頁と同じ。シャツ2万7500円、
タイ1万7600円、パンツ3万6300円
/以上ポール・スチュアート(SANYO
SHOKAI カスタマーサポート Tel/
0120-340-460) 靴9万9000円/三
陽山長(三陽山長 日本橋高島屋 S.C. 店
Tel/03-6281-9857)



①いつでもどこでも“あの頃”の音楽を楽しめるのが魅力。夕食時にはレストラン手前の「アスカプラザ」でも。②プロのディスコダンサー・JINさんがディスコダンスのステップをレクチャー。③6デッキの「クラブ2100」で開催されたメインのディスコイベントは深夜まで大盛況。④DJ OSSHYさんとラジオパーソナリティのルーシー・ケントさんが、昭和から令和までのディスコの歴史を紐解くトークショーを開催。

「飛鳥II」
テーマクルーズという選択
**STYLE for
Cruise**

音楽、文化、芸術……
ひとつのテーマに基づいた
世界観を洋上で楽しむ
「飛鳥II」のテーマクルーズ。
その没入感に迫ります。
さて、今回のテーマとは。

photographer:
SUSUMU TSUNODA
writer:
MIO AMARI

洋上がDISCOに! DYNASTY DISCO on ASUKA II

2

025年10月17日の
夕刻。横浜港から乗船す
るとアスカプラザには懐か
しのディスコミュージックが鳴
り響き、高揚感が充満。この日
から19日まで、「飛鳥II」の各所
が80年代を中心とした音楽に包
まれるテーマクルーズ「DYN
ASTY DISCO on AS
UKA II」が開催されました。
出港時には、プールサイドが
“洋上のディスコ”に。DJ O
SSHYさんを筆頭に、日本の
ディスコシーンを牽引してきた
DJたちが登場し、エネルギー
シユな航海の幕が上がります。
夕食後は、ダンスホール「ク

④11デッキの
シーホースプールで
行われた出港イベント
「BON VOYAGE」。
DJ OSSHYさんによる
“誰もが楽しめる”
ディスコミュージックで
会場はたくさんの笑顔に
包まれました。

クラブ2100」などがディスコ
に変貌。フロアで軽やかにステ
ップを踏む方、座ってビートに
身を委ねる方——老若男女が思
い思いのスタイルで音楽に酔い
しました。プロのディスコダン
サーによるレッスンもあり、初心
者でも安心して参加できます。
ほかにもディスコの歴史を辿
るトークショー、和製ユーロビ
ートの先駆け・荻野目洋子さん
のスペシャルステージも開催さ
れ、ディスコの世界観にとこと
ん浸る3日間となりました。
今後も「飛鳥II」では、多彩
なテーマクルーズが予定されて
います。どうぞご期待ください。

Tour Information

2026年も「飛鳥II」を舞台にした
魅惑のテーマクルーズが続々

お客様と船とエンターテイナーと一緒に楽しめる
テーマクルーズ。7月には船内が南国の装いに彩られる
人気の「HULA ON ASUKA II」、9月には名門ジャズ・クラブ
「Blue Note Tokyo」の世界を楽しむ
「JAZZ ON ASUKA II with BLUE NOTE TOKYO」を予定。
詳しくはホームページでご確認ください。

贅を尽くした「飛鳥Ⅲ」の客室クラス「ペントハウス」での滞在は
非日常を体感できるラグジュアリーの極み。比類なきクルーズ体験を叶える、
“特別なおもてなし”を一つずつ紐解きます。



ウェルカムサービスの一例。日本酒の蔵元がブルゴーニュで手掛ける「ドメヌ・クヘイジ」のスパークリングワイン、ホルド一初日本人女性醸造家による「ジー・バイ・ユリグサ」の白ワイン・赤ワインとともに、生ハムやサلامي、チーズ、フルーツ、スイーツなど盛りだくさん。ノンアルコールドリンクのご用意もございます。



ダイニングやカウンターテーブル付きミニバーを備えたリビングルームやベッドルーム、大海原を望むバスルーム、書斎、サンルームも備えた114.8㎡の「ロイヤルペントハウス」。平松礼二氏の絵画が贅沢な空間に彩りを添えています。

多
くの上級客室では船旅の幕開けを祝うために心づくしの「ウェルカムサービス」が用意されるのですが、「飛鳥Ⅲ」のペントハウスクラスでは、そのおもてなしが格段に洗練されています。客室に入ると、きらめくフインガーフードやスイーツの乗ったワゴンがお客様をお出迎え。とくに2室限定の最上級客室「ロイヤルペントハウス」にはご乗船後より専属のペントハウスコンシェルジュがつきまします。またご乗船前のご要望はEメールやお電話でお受けすることも可能。大切な旅を素敵に彩るご相談にも応じております。ペントハウスでは「飛鳥Ⅲ」の非日常的な体験がいち早くお楽しみいただけます。ぜひ、格別なひとときをご堪能ください。

ロイヤルペントハウス
ワゴンで始まる
洋上の物語のプロローグ
ウェルカム
サービス

ROOM
9031
ASUKAⅢ

ROOM
9030
ASUKAⅢ

ASUKA CRUISE ART COLLECTION

アートとともに旅する贅沢なひととき。
「飛鳥Ⅲ」には日本を代表する作家の作品が船内各所に展示されています。
その魅力を一作品ずつご紹介しましょう。

photographer:SUSUMU TSUNODA
writer:MIO AMARI



Waterfall on Colors

千住 博

on ASUKAⅢ DECK 6 ギャラリーカフェ

1958年、東京都生まれ。東京藝術大学絵画科日本画専攻卒業、同大学院修士課程修了。抽象表現主義に根ざすミニマルな表現と日本古来の絵画技法を組み合わせた作品を制作。1995年、第46回ヴェネツィアビエンナーレに出品し、絵画部門にて名誉賞を受賞。2022年より日本芸術院会員。現在もニューヨークを拠点に精力的に活動中。

平和への祈りを
滝に託し、美しい色彩で
幸福感を紡ぐ

日

本画家・千住博さんの代表作として広く知られる「ウォーターフォール」。日本の伝統画材である岩絵具を画面へ流し、時間と空間の神秘を表したこのシリーズの新作が「飛鳥Ⅲ」船内に飾られています。特徴的なのが、最新技術による漆喰紙の採用。フレスコ画のような質感が色彩を際立たせ、見る者の心を満たします。カラフルにした理由について千住さんはこう語ります。「コロナ禍で世界が停滞した時、滝の内側から外の世界を見た記憶が甦りましてね。水が動くことで向こうの花や木が輪郭を失い、色だけが表れる。その印象を描こうと思いました。世界には多様性があり、色彩や光に満ちていることを示したかったのです。お客様が旅の途中、船内に戻られた時に、この絵を通して平和や幸せを感じていただけたらうれしいですね」このメッセージを「飛鳥Ⅲ」でぜひ体感してください。

